

世界自然遺産登録5周年
国立公園指定10周年記念

奄美・沖縄
子ども交流事業

子ども新聞

学び、深めた郷土愛

特別号



ピナイサーラの滝
ツアー



野生生物保護センターでの
環境学習



祖納集落 豊年祭へ参加



西表島小中学生との交流会



ナイトツアーで
夜の生き物観察



水牛車に乗り由布島へ

令和8年7月28日から31日までの4日間、奄美群島の中学生12名が西表島を訪れ、交流事業を実施しました。野生生物保護センターでの環境学習をはじめ、ピナイサーラの滝ツアーやナイトツアーなど、豊かな自然を体感するさまざまなエコツアーを体験。また、西表島の小中学生との交流会では、一緒に活動しながら交流を深めました。

奄美群島の中学生は、研修前に自分が住んでいる島と西表島の違いについて事前に学び、研修に臨みました。実際に西表島を訪れると、自然や文化の中に「違い」だけでなく、島同士の「共通点」もたくさん見つかりました。見て、聞いて、触れて、話して——。4日間の体験を通して、子どもたちは西表島の魅力を発見するとともに、自分たちが暮らす島の魅力も改めて見つめ直しました。

「西表ってすごい」

龍郷町立赤徳中学校
3年 ロレンス 由庵

①祖納集落の豊年祭がすごい

私がこの研修の中で一番心に残ったのは、祖納集落の豊年祭です。私が住んでいる地域では種下ろしという豊年を祝う祭りが毎年行われていますが、祖納集落の豊年祭は、奄美の種下ろしとは全く異なる独特で賑やかな祭りでした。まず、集落の中の一つの十字路の中心にたくさんの藁を集め、山のように積み上げた後にとてつもなく太い縄を置き、後々それで綱引きを行います。集落の人と私たちは綱引きをするまで藁の山の上に上がり、「ヨイサー ヨイサー」と掛け声を繰り返し、一時間くらい踊りつづけました。初めての体験でしたが、夢中になって楽しみました。集落の人も、私たちのような島外からきた人も祭りを通してみんな一体となって楽しむことが素晴らしいと思いました。



▲祖納集落の豊年祭の綱引き

◀祖納集落の豊年祭の踊り

②ヤマネコを守るための工夫がすごい

奄美大島と西表島はどちらも島だということは以前から知っていましたが、それぞれ生き物の種類が違っていたり、生き物を守るために行われている対策が違うことに驚きました。西表島では「イリオモテヤマネコ」というこの島だけにいる猫がいますが、ロードキルを減らすために「アンダーパス」という道路の下に生き物専用の通り道を作ったりする工夫がされており、ヤマネコの大切さを守ろうとする努力が感じられました。

奄美大島では「アマミノクロウサギ」という奄美と徳之島でしか見ることのできないウサギがいますが、減速帯を設置したり、道路際に看板を設置したりしています。それぞれの島で希少な動物を守るための様々な取り組みを比べることが出来ました。

③なかなか行けない西表島で学べたことがすごい

西表島は奄美大島と同じく世界自然遺産に登録されています。日本全体で見たら近いように思えるかもしれないけれど、結構離れていて、行くまでにとても時間がかかりました。今回の研修を通して、私は以前よりも西表島についての関心がとても高まったと思います。奄美大島と同じく自然豊かで、たくさんの動植物が生息しており、その動植物たちをどのように守っていくかなどの取り組みを知ることができました。奄美大島と西表島のそれぞれの自然や動植物、文化を知り、感じて、自分自身でその違いを比べられるようになったこと、そして小さなことでも感動を得られるようになったことは、自分にとってとても大きかったです。



▲イリオモテヤマネコ像の前で記念撮影

▲西表野生生物保護センターで
自然について学ぶ

④世界自然遺産の島ってすごい

今回の研修で学んだことはとても多く、この一枚で書き終えることは出来ないほどです。西表島と奄美大島は、世界自然遺産に登録されている島として自然が豊かで多くの動植物がいるという点では共通しています。でもその自然環境や動植物には違いがあります。私自身もこの研修に参加するまで、全然詳しく知りませんでしたので、あまり詳しくない人もたくさんいるのではないかと思います。

今の私は、2つの島の違いや良いところをたくさん知っています。まずは家族や友達、身近な人々に伝えることによって、自分が住んでいる島の素晴らしさや美しさ、文化や伝統の大切さ、自然や環境、文化を守るために、どうしていけばいいのかを改めて話したり考えたりしていきたいです。

私は英語を喋ることが得意なので、インターネットやSNSを通じて発信することで、日本人だけでなく、海外の人にもこの島々の良さを知ってもらえたら嬉しいです。